

地元産米粉麺で最優秀賞

山形・米沢

山形県米沢市で地元農産物を生かした食品の開発・販売を手がける「合同会社 crop (クロップ)」代表で事業構想大学院大1年、高橋りなさん(32)らのグループが、2023年12月に仙台市であった「キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)」東北大会で最優秀賞に輝いた。高橋さんは県立米沢工高の専攻科に在学していた11年にも同大会に出場したが受賞を逃し、今回12年ぶりの雪辱。2月26日に東京で開かれる全国大会に挑む。



商品化した米粉麺を手にも全国大会への意気込みを語る(左から)戸屋康介さん、高橋りなさん、澤雅恭さん＝山形県米沢市で

CVGは、全国の大学生起業家の登竜門」として知られる。学・大学院・短大・高専・専門学校を専攻した学生を対象にしたビジネスプランコンテストで、「学

米粉を活用した新食品の開発事業。11年大会

と対して米粉麺がテーマだ。高橋さんは、専攻科の後輩が22年大会に出場した際に奨励賞に選ばれた、地元特産の紅花を使った食品開発のアイデアを継承。自らの米粉麺と組み合わせ、23年4月には事業構想大学院大に進み、事業展開のノウハウなどを学びながら、5月にクロップを起業した。県産米の米粉を活用した麺に米油や紅花エキスを加えることで付加価値を高め、「米粉麺プラス」と名付けて販売している。地元産の米粉と連携し、原料の安定調達とコスト削減を図りながら、宇治抹茶を加えた麺の商品化するなど各地の特産品を使った米粉麺の開発を進める。

今大会には、後輩で専攻科1年の澤雅恭さん(19)と戸屋康介さん(19)が市場などの各種調査やデータ収集を支援し、3人チームで挑戦した。事業化の実績だけでなく、積極的な市場調査、ユーチュ

ーと連携した宣伝、離乳食・子供の食育への展開といった将来性もアピールした。高橋さんは「起業はつらさや楽しさ両方あったが、いろいろな

たちに支えられて頑張れた。全国大会では自分の思いや事業の強みをしっかり伝え、賞を目指したい」と意気込んでいる。

【横田信行】